

第26回 卒業証書授与式 式辞

校門の桜の蕾も膨らみはじめ、新たな春の訪れを感じる今日の佳き日、大阪府立日根野高等学校第26回卒業証書授与式を挙げるにあたりまして(泉佐野市教育委員会 学校教育課指導主事 辻本武司様、地元中学校の校長先生方、)並びに多くのご来賓のご臨席を賜りました上、多数の保護者の皆さまのご列席を得ましたことは、卒業生はもとより本校教職員一同にとりまして心からの慶びであります。高いところからではございますが、心から厚く御礼を申し上げます。

ご列席の保護者の皆さま、本日は誠におめでとうございます。高校生活3年間の研鑽と努力を通して、本日ここにめでたく栄えある卒業をお迎えになられたことを心よりお祝い申し上げます。

さて、三年間の学業を修め卒業証書を授与された235名の卒業生の皆さん、あらためて卒業おめでとうございます。そして、私も皆さんからたくさんの方の力と元気をいただきました。本当にありがとうございます。皆さんは今、過ぎてしまえば長いようで短かった3年間のたくさんの思い出とともに、輝かしい未来にむけて、夢と希望に胸ふくらませ、この場に臨んでいることと思います。そんな皆さんに校長として最後の言葉をお贈りしたいと思います。それは、

夢をかたちに

やはり、この日根野高校の基本メッセージを選びたいと思います。

少し乱暴な言い方をしますが、残念ながら、夢はそう簡単には実現しません。もちろん、最初にもった夢をあきらめずにそれが叶えば、それはそれで素晴らしいことです。でもその確率はかなり低い。素朴に言いますと、昔の子どもの多くはプロ野球の選手になりたかったし、飛行機のパイロットになりたかった。でも、その夢はほとんど叶わないままです。

どうせ叶わないなら夢を持たずに生きる。でもそれでいいかというと、いいわけがありません。夢がないのだから、いつまでたってもやりたいことが見つからない。やらなければならないことも分からない。これは一番残念な状態です。だから、少しの勇気を持って、雑でもいいからまず(夢という言葉が重かったら)将来のなりたい目標を立ててみよう。将来の目標にも人それぞれあるのだから、まずは世の中の人々がどんな夢や目標を持っているか学んでいこう。すべてはそこから始まると思います。

もちろん、皆さんの中にはもうしっかりとした夢を持っている人もたくさんいると思います。その人たちは、後は実行あるのみ。覚悟を決めてやるだけです。ただ、実際に行動するにあたって、失敗を恐れてはいけません。成功している人は、その2倍の失敗を経験しています。逆に、失敗がないなら成功もないように思います。あのイチローだって、10回のうち7回は失敗します。失敗を経験することで初めて自分の正体が見えてくる。そういうものだと思います。

ただ、その時、少しショックを受けるかもしれません。けれど、それに修正を加えながら、夢と挫折を何度も繰り返すことで、初めて自分の適正や可能性がわかってくるのです。適正が分かってくることによって、徐々に夢が現実にマッチングしていくというのが普通のプロセスだと思います。だから、夢は実現することだけに価値があるわけではありません。むしろ、失敗し挫折することで、価値を生むことの方が圧倒的に多いと思います。結局、夢は失敗を繰り返すことでしか「かたち」になっていかないのかもしれない。

ただし、何度も試行錯誤するためには、心が折れてしまってはいけません。この時どうしても必要になるのが友人と家族です。だから、相談ができる友人や知り合いをできるだけたくさん持とう。私の経験からすると、そういう人の方が、夢を実現する可能性が高いような気がします。

最後になりますが、

皆さんには、この3年間を共に学んできた友という大きな財産があります。人生に迷う時に振り返ることができる日根野高校という心強いベースキャンプがあります。未来を創造するという若さがあります。その自覚と誇りを持って、それぞれの輝かしい未来創造のために益々精進されることを心から祈念して、式辞と致します。

平成27年3月3日

大阪府立日根野高等学校長
岸野 圭吾